

誰もが抱える悩みを。パツと解決！

# 福 田 貴 一 先生 の 福 が 来 る ア ド バ イ ス



早稲田アカデミー  
教育事業第二本部 副本部長  
福田 貴一

「親子の受験」の意味とは

## 「親子の受験」のイメージ

「親子の受験」と聞くと、親が勉強しているお子様の隣に常に座って見守り、お子様がつまづいたときにはすぐにアドバイスを送る……、そんなイメージをお持ちになる方もいるかもしれませんが。たしかに、そういった学習の進め方もあるでしょう。お子様の学習面についてしっかりと把握し、難しい問題には一緒にチャレンジし、苦手単元を克服するために適切なアドバイスをします。まるでスポーツにおける「コーチ」のような役割でお子様に接していく方法もあります。ただ、最近の中学入試においては、このような関わり方は少なくなっているのではないのでしょうか。私は「親子の受験」という言葉は、もう少し広い意味で使われていると感じています。

## 親の「最初」の役割

中学受験における親の「最初」の役割は、「中学受験をするかどうか」を選択することです。中学校は義務教育ですから、入試を経なくても通える学校が用意されています。その中学校への進学を選ばずに、入試に合格することが必要な中学校への進学を希望するかどうか、という選択をすることになります。その選択の背景には、ご家庭の環境やお子様の状況、さらにはお子様自身の夢など、さまざまな要素があることでしょう。それらを総合的に考えたうえで「初めの一步」を踏み出す決断をするのが、親として最初の役割となるはずで

「中学受験を目指す」と決めた場合、次に考えるべきは「中学受験へ向けた学習をどの塾で、

「中学受験は『親子の受験』といわれます。中学受験に挑むのはまだ幼い小学生ですから、学習面や生活面の管理はもちろんのこと、精神的な支えになったり受験校を決定したりと、保護者の方が果たす役割は大きいものです。しかし私は、この言葉の意味は、「親のサポートが不可欠だ」というだけではないと考えています。今回は「親子の受験」という言葉から中学受験を考えます。

どのようなカリキュラムで進めていくのか」という点になります。中学受験を目指す方対象の進学塾はたくさんありますが、やはりそれぞれに特徴があります。多くの塾のなかから、お子様の性格やタイプ、志望校などを検討しながら選んでいくこととなります。またそれ以外に、塾までの距離や通塾に掛かる時間、通塾日数、



費用といった点も考えることが必要でしょう。進学塾のカリキュラムには連続性がありますので、通っている塾を途中でやめて別の塾に変えるというのはリスクが伴います。できれば中学受験をするに決めた段階で、最後まで通い続けられる塾を選んだ方が良いでしょう。ですから、お子様に最も適した塾を選ぶことも、親の大切な役割だと私は考えています。

### 塾に通い始めてからの親の役割

中学受験へ向けたスタートを切り、塾に通い始めるようになると、親の役割はご家庭によって、またお子様の成長段階によって変わってきます。最初に例に挙げたように、お子様の学習を一つひとつ一緒に進めていく……というスタイルもあります。通塾を始めたばかりのころ



定模試で思うような成績が取れなかったりすると、その不安はどんどん大きくなっていきます。不安が大きくなれば集中力が低下し、焦る気持ちがあると一つひとつの学習に深く取り組みなくなってしまう。場合によっては、直前にこそやるべき課題がおろそかになってしまふことも考えられます。

中学受験は、身体面だけでなく精神面でもまだ発達の途中にある6年生が挑む入試です。そのため、高校受験や大学受験とは異なり、普段の成績通りの結果にならないことが多くあります。合格可能性30パーセントだった生徒が逆転合格をすることもありますが、「逆転不合格」というケースも珍しくありません。常に合格可能性80パーセント以上だった学校で思わぬ結果になってしまふ、ということもよくあるのです。だからこそ、お子様の精神面を支えていただき、持っている実力の100パーセントを発揮させてあげることが、中学受験における「親の最後の役割」だと考えています。

### 親も一緒に立ち向かう それが中学受験

入試本番の朝、会場となる中学校には、お子様に付き添って多くの保護者の方がいらっしやいます。逆に、保護者の方が一緒に入試会場に向かわない、というケースは非常に少ないのではないのでしょうか。

最近は高校受験や大学受験でも、保護者の方

や低学年のころには、そういった進め方が必要な場合もあるでしょう。ただ、学年が上がっていくとそういった方法はなかなか取れなくなるのが一般的です。私は、概ね小学5年生になったタイミングで、学習内容の細かい部分のサポートからは手を離していただくようにお話ししています。

学習面よりも、お子様の精神的な部分を支えていただくことが、毎日の生活の中で一番大きな「親の役割」になるのではないのでしょうか。中学受験へ向けたカリキュラムは、その年齢の生徒にとっては高いレベルに設定されています。わかりやすくいえば、「難しい」わけです。その「難しさ」を「難しいから面白い」「難しいことがわかって楽しい」というふうに感じられると、子どもたちは伸びていきます。とはいえ、「難しく大変」「難しいからもういやだ」という気持ちになってしまふのは誰しもあることです。そういったタイミングでしっかりと支えていただき、その壁を乗り越えられるようにサポートしていただくのが、親の役割の大きなポイントになります。そのタイミングを見逃さないために、お子様の学習状況を把握しておくことが大切なのです。

また、首都圏における小学6年生の中学受験率は15パーセント前後といわれています。この数字は地域によって変わってきますが、首都圏全体の小学6年生の約85パーセントは「中学受験をしない」という選択をしているわけです。そのため、小学校で「受験をしない友達」との

が入試会場に同伴されるケースが増えてきていると聞いたことがあります。そこにはさまざまな理由があるのだと思いますが、中学受験の場合は、お子様の安全面の確保というのが大きいでしょう。受験生といってもまだ小学生ですから、入試会場である中学校まで、1人で電車などを乗り継いでいくのは難しいケースがほとんどだと思います。

また、入試直前のお子様の精神面をケアするため、という理由も挙げられると思います。入試本番を迎え、お子様は大きな緊張や不安を抱えているはずです。入試会場へ向かう道は、先ほど書かせていただいた「親の最後の役割」を全うするための大切な機会でもあるわけです。しかし私は、それら以外の理由もあるように



付き合ひ方が難しくなる場合もあります。その壁を乗り越えるためには、お子様が「なぜ中学受験すると決めたのか」という選択の「軸」をしっかりと理解し、納得しておくことが大切です。お子様との丁寧な会話を通じて、その「軸」を共有しておくことが必要になってくるはずです。

### 親の「最後」の役割

受験学年になってからの「親の役割」として一番大きなものは、「受験校の選択」だと考えています。非受験学年の間に「一番行きたい学校」、つまり第一志望校は決まっている方が多いと思いますが、実際にその学校を受験するのか、第一志望校の他にどの学校を受験するのかといった「受験校選択」が非常に大きな親の役割となるはずです。

「受験校は子どもに決めさせたい」というご家庭もあるでしょう。私も、最終的な判断は実際に6年間通うことになるお子様の意見を尊重する必要があると考えています。しかし、その手前で「どの学校を選択肢にするか」といった基準を決めるのは、やはり保護者様のお考えからスタートするべきだと思います。

そして、親の「最後」の役割になるのが、10月ごろから約4か月間の入試直前期、お子様の精神面をどうサポートしていくか、という点です。入試直前期、受験生は大きな不安を抱えはじめます。志望校の過去問でなかなか合格ラインを超えることができなかつたり、合格可能性判

考えています。それは、保護者の方ご自身にとっても入試当日は大切な日だから、なのではないのでしょうか。お子様とともに多くの困難を乗り越え、そして迎えた大切な入試に一緒に挑む——そんなお気持ちがあるのだと思います。

「親子の受験」という言葉のとらえ方もその進め方も、ご家庭によってさまざまだと思います。ただ、親と子が一緒に大きな目標に向かっていく、という点は変わらないでしょう。一番大切なのは、親子が笑顔で、楽しみながら進んでいくことだと考えています。私は講師として、そんな中学受験を応援させていただきたいといつも考えています。



福田 貴一  
早稲田アカデミー  
教育事業第二本部  
副本部長

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー



左の二次元  
バーコードを  
読み込んで  
ご確認下さい

スマートフォンのみ対応